

2020年度

高度IT 人材育成研修

研修ホームページ

<https://www.nico.or.jp/kensyu/>



Niigata
Industrial
Creation
Organization

公益財団法人
にいがた産業創造機構

〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号「万代島ビル」(公財)にいがた産業創造機構-9~10F / NICOプラザ-11F
TEL.025-246-0025 FAX.025-246-0030 E-mail info@nico.or.jp URL <https://www.nico.or.jp>

◆ NICOの高度IT人材育成研修について

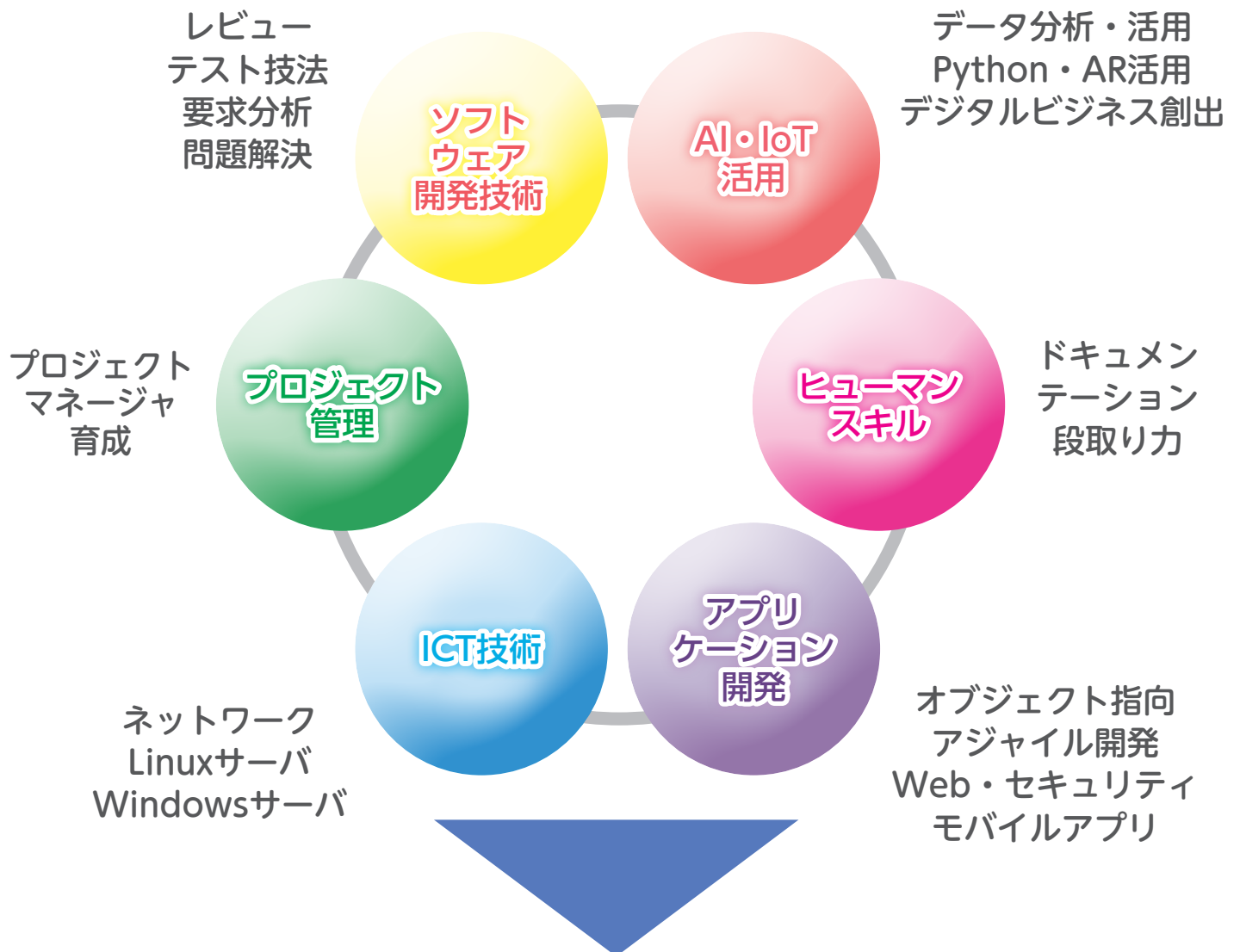
公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）では、ITを競争力の源泉とする付加価値の高い産業群の創出を目指し、平成15年度から「高度IT人材育成研修」を実施し、延べ5,300名のIT人材を輩出してきました。

本研修は、新潟県において、高度な設計・開発技術を有するリーダークラスやAI・IoT等の高度ITを活用できる企業内人材を育成するため、下図の視点で講座を開講しています。

ソフトウェアの設計・開発技術については、情報処理推進機構（IPA）が公表しているITスキル標準（ITSS）、ITSS+に対応したレベル感を明確にして体系立てたカリキュラムを構成しており、ソフトウェア開発の上流工程を担える高度な開発設計技術を有するリーダークラスの人材育成を目指しています。

また、IT活用により人々の生活やビジネスを大きく変革させる「デジタルトランスフォーメーション」の波に乗り遅れない強い企業をつくるために、近年注目されているAI、IoT等の最新技術を活用した新たなビジネスを創出できる人材育成の講座も開設しています。

NICOは、本事業を通じて、県内IT技術者のスキルレベルの向上を図るとともに、最新技術への対応や新ビジネス創出ができる人材＝次世代の高度IT人材を育成します。

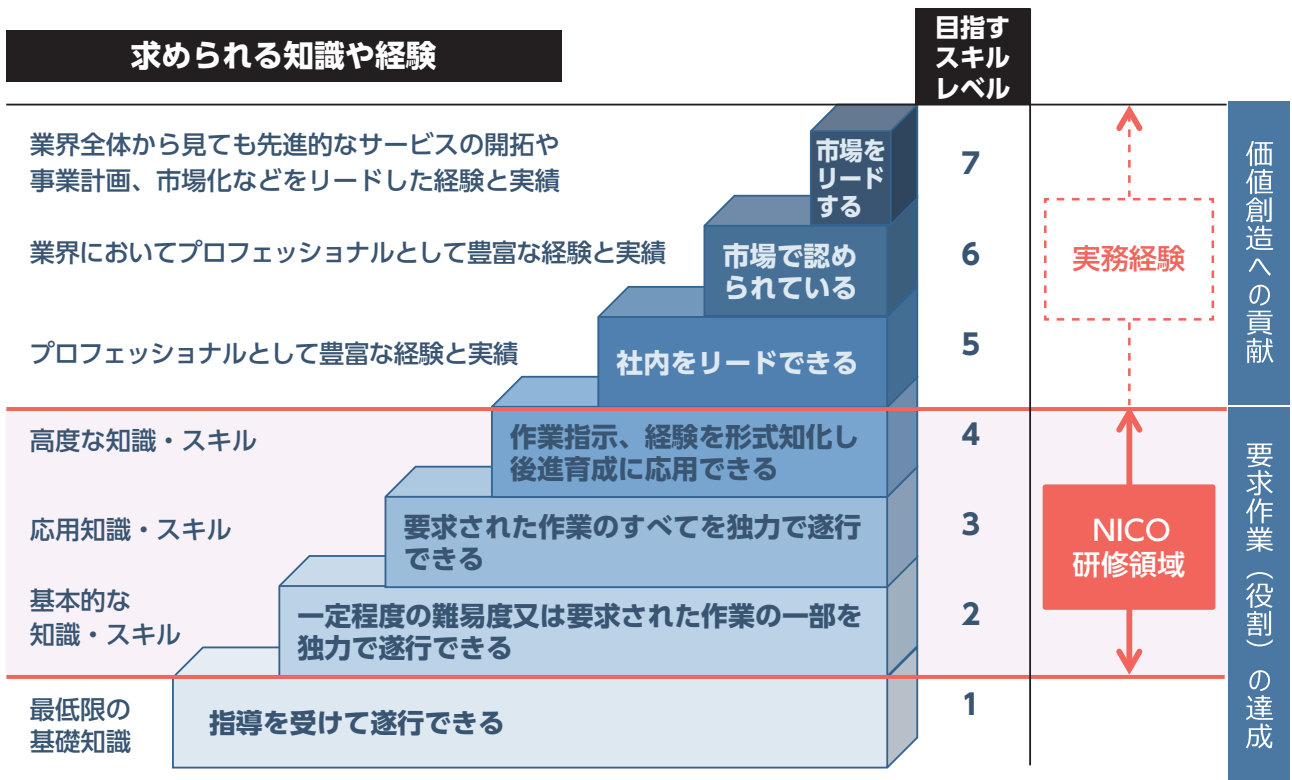


IT活用による県内産業の付加価値向上、新ビジネスの創出

◆ 高度IT人材育成研修のねらい

本研修は、ITスキル標準（ITSS）、組込みスキル標準（ETSS）に対応したスキルとキャリアを明確にして、レベル感を明らかにしながら、ソフトウェア開発の上流工程を担える高度な開発設計技術を有する技術リーダークラスの人材育成を目指します。（一部の講座は、ITSS+に対応）

ITエンジニアのリーダークラス(ミドルクラスからハイクラス)へ



【NICO 研修の特徴】

- 首都圏にも負けない質の高い研修
- 地元開催により、旅費や宿泊費等の付帯する経費が不要
- 受講生を派遣しやすい受講料設定

◆ 個人情報の取り扱いについて

本研修の受講にあたり開示いただいた個人情報は、研修の開催・運営業務及び研修ニーズ調査など高度IT人材育成研修事業にのみ利用させていただきます。また、個人情報の管理は、当機構の「個人情報保護の方針（プライバシーポリシー）」（参照ホームページ：<https://www.nico.or.jp/privacy/>）に基づき適切に保護措置を行います。

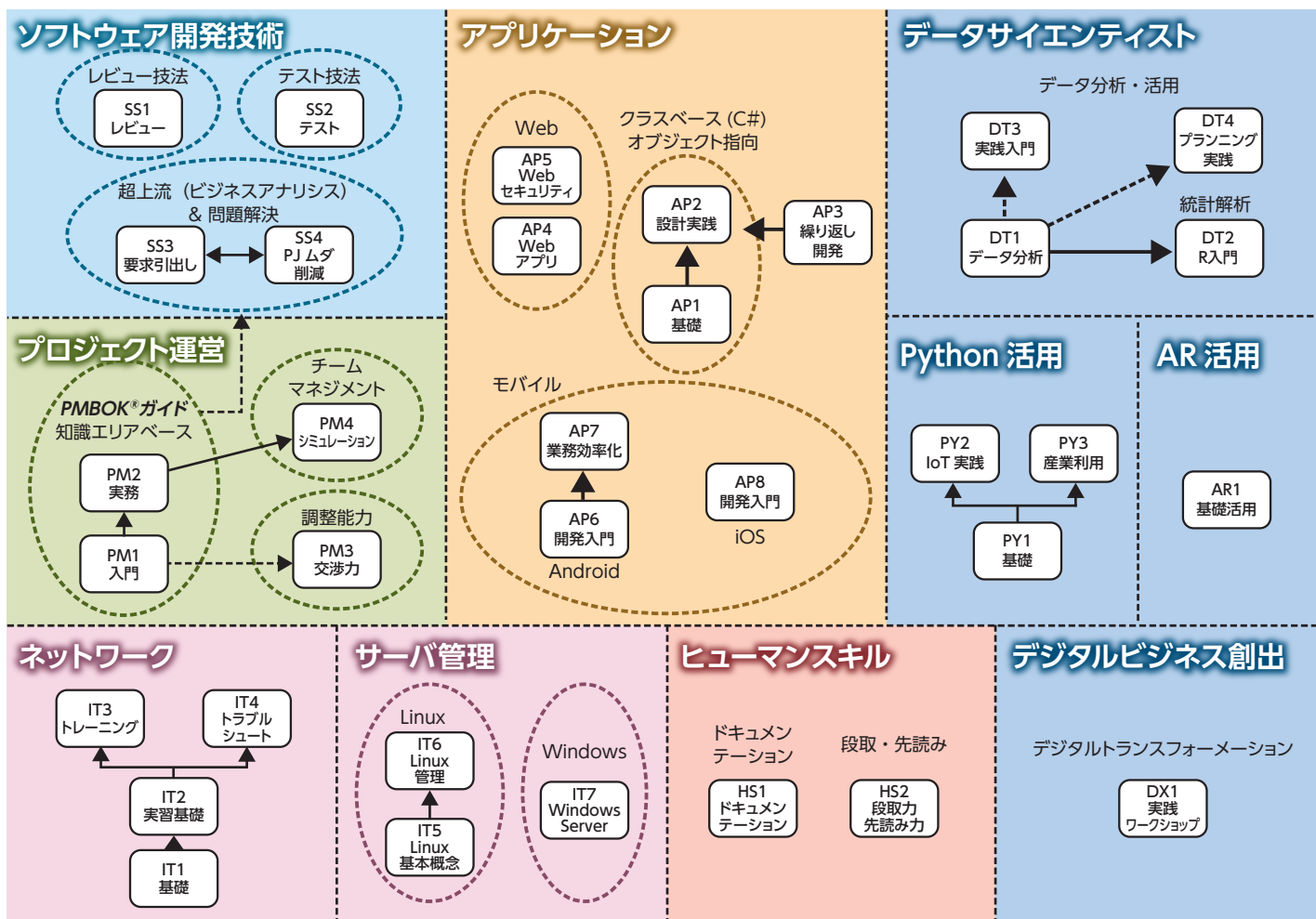
◆ 2020年度 高度IT人材育成研修 講座一覧

研修会場：NICOプラザ研修室・会議室（新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル11F） 研修時間：9:30～17:15

講座 No.	講座名	定員	日数	ITSS/レベル	受講料(円)	開催予定日	掲載頁
■ソフトウェア開発技術向上コース							
SS1	システム開発におけるレビュー技法	20	2	3	66,000円	10月22日(木)～10月23日(金)	5
SS2	システム開発におけるテスト技法	16	2	3	66,000円	8月4日(火)～8月5日(水)	5
SS3	成功するプロジェクトのための要求引出しと要求分析	16	2	4	61,000円	9月24日(木)～9月25日(金)	5
SS4	システム開発におけるプロジェクトのムダの顕在化と削減	16	2	4	61,000円	10月26日(月)～10月27日(火)	5
■プロジェクトマネージャ育成コース							
PM1	PMBOK®ガイド 入門（第6版準拠）	16	2	3	66,000円	10月13日(火)～10月14日(水)	6
PM2	PMBOK®ガイド プロジェクトマネージャ実務演習	16	3	3	71,000円	9月8日(火)～9月10日(木)	6
PM3	プロジェクトを成功に導く交渉力強化	16	2	4	61,000円	10月5日(月)～10月6日(火)	7
PM4	プロジェクト実践シミュレーションによる実行と監視・コントロールでの判断力強化	16	2	4	61,000円	11月18日(水)～11月19日(木)	7
■ICTスペシャリスト育成コース							
<ネットワーク標準コース>							
IT1	ネットワークシステム基礎トレーニング	15	3	2	112,000円	6月24日(水)～6月26日(金)	8
IT2	ネットワーク構築実習（基礎編）	15	3	2	112,000円	7月8日(水)～7月10日(金)	8
IT3	ネットワーク設計・構築トレーニング	15	3	3	112,000円	10月21日(水)～10月23日(金)	8
IT4	ネットワーク運用管理トラブルシューティング	15	2	3	91,000円	12月17日(木)～12月18日(金)	8
<プラットフォーム Linuxサーバコース>							
IT5	Linux基礎と基本概念	15	3	2	61,000円	9月1日(火)～9月3日(木)	9
IT6	Linuxサーバ・システム管理	8	3	2～3	61,000円	9月29日(火)～10月1日(木)	9
<プラットフォーム Windows Serverコース>							
IT7	Microsoft Azureを利用したWindows Serverの基礎	15	3	3	91,000円	10月28日(水)～10月30日(金)	9
■アプリケーションスペシャリスト育成コース							
<アジャイル時代オブジェクト指向コース>							
AP1	オブジェクト指向の理解とC#での実現	15	3	2～3	66,000円	6月30日(火)～7月2日(木)	10
AP2	実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング（C#編）	15	3	3～4	66,000円	7月28日(火)～7月30日(木)	10
AP3	繰返し型開発の体験とリファクタリング（C#編）	15	3	3～4	66,000円	11月25日(水)～11月27日(金)	10
<Webアプリケーション開発コース>							
AP4	Webアプリで学ぶオブジェクト指向とJavaプログラミング基礎	15	3	2～3	61,000円	8月26日(水)～8月28日(金)	11
AP5	Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策	15	2	3	45,000円	7月21日(火)～7月22日(水)	11
<モバイル活用型開発入門コース>							
AP6	JavaによるAndroidアプリ開発入門	15	3	3	71,000円	9月16日(水)～9月18日(金)	12
AP7	モバイル活用で加速させる業務効率化（Android編）	15	3	3	71,000円	11月10日(火)～11月12日(木)	12
AP8	SwiftによるiOSアプリ開発入門	15	3	3	71,000円	2021年1月13日(水)～1月15日(金)	12
■ヒューマンスキルコース							
HS1	IT技術者のためのドキュメンテーション	16	2	3	50,000円	12月1日(火)～12月2日(水)	13
HS2	失敗しないプロジェクトのための段取り力と先読み力	16	3	3	66,000円	7月15日(水)～7月17日(金)	13

講座 No.	講座名	定員	日数	ITSS/レベル	受講料(円)	開催予定日	掲載頁
■AI・IoT活用人材育成コース							
<データサイエンティスト入門コース>							
DT1	データ分析手法の理論と適用 (E-ラーニング)	-	-	-	34,485円	5月～2021年1月(随時)	15
DT2	R言語によるデータ分析入門 (E-ラーニング)	-	-	-	10,240円	5月～2021年1月(随時)	15
DT3	データサイエンス実践入門	15	1	2～3	71,000円 ^(*)	10月 2日(金)	15
DT4	データ活用プランニング実践	15	1	2～3	71,000円 ^(*)	11月13日(金)	15
<Python活用コース>							
PY1	体系的に学ぶPython基礎	15	3	2～3	61,000円	7月14日(火)～7月16日(木)	16
PY2	Raspberry PiでIoT実践 (Python編)	15	3	3	71,000円	11月 4日(水)～11月 6日(金)	16
PY3	IoTの基礎と産業利用 (ラズパイ実践編)	8	3	3	71,000円	12月 9日(水)～12月11日(金)	16
<AR活用コース>							
AR1	AR基礎とビジネス活用	15	3	2～3	61,000円	10月 7日(水)～10月 9日(金)	17
<デジタルビジネス創出コース>							
DX1	デジタルトランスフォーメーション 実践ワークショップ	20	3	-	122,000円	9月3日(木)～4日(金)、9月11日(金)	17

注1) DT1・DT2 (E-ラーニング) の受講料は本研修における価格です。標準価格は36,300円 (DT1)、10,780円 (DT2) です。
注2) DT3・DT4の受講料は各社2名までとなります。これを超える場合はDT3、DT4いずれも112,000円となります。
注3) 受講料には消費税(10%)及び教材費が含まれます。
注4) 開催予定日時は講師の都合により変更になる場合があります。また、受講希望者が少ない場合は開講しないことがあります。あらかじめご了承ください。
注5) PMBOK、PMPは、プロジェクトマネジメント協会(Project Management Institute, Inc.)の登録商標です。



◆ ソフトウェア開発技術向上コース

【研修概要】

本コースは、レビュー、テスト、要求分析といったソフトウェア開発において重要な手法のスキルアップや知識の習得を目指します。どの講座もグループ演習を通じて、現場に適用するための技術が習得できます。講師は全て現場経験があり、現場に適用するためのノウハウも含めて学ぶことができます。

【コース体系】 (レベル)

L4
経験の知識化と
応用ができる


[SS3] 2日間
成功するプロジェクトの
ための要求引出しと
要求分析


[SS4] 2日間
システム開発における
プロジェクトのムダの
顕在化と削減


L3
単独で仕事をこなせる


[SS1] 2日間
システム開発における
レビュー技法

[SS2] 2日間
システム開発における
テスト技法

SS1 ~より効果的・効率的にレビューを行うには~ システム開発におけるレビュー技法(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> システム開発において、プロジェクトチームとして効率的に機能するためのレビューについて、より効果的・効率的に進めるためのポイントを学ぶことができる。 単にレビューの技法を学ぶだけではなく、レビュー時のチェックの視点、レビューに対する意識の持ち方なども学ぶことができる。 よりレビュー効果の高い、上流工程におけるレビューを意識したカリキュラムである。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々なレビューの種類の違いや、どのような視点でレビューを行うかを理解する。 インスペクションのプロセスを通じて効率的、効果的なレビューの技法を学ぶ。 レビュー時間を短縮し、より重大な欠陥を見つけるレビューの進め方を学ぶ。
対象者	業務でレビューを主催する方、又はレビューに参加する方
前提知識	特になし（一度でもレビューに参加したことがある方が好ましい）
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> システム開発の現状とレビューの関係 システム開発の「見える化」とレビュー プロセスレビューでの「見える化」ポイント プロダクトレビュー実施におけるポイント レビュー技法の種類と概要 レビューに参加する際の意識 演習《レビューに関するディスカッション》 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> インスペクションの概要 インスペクションプロセス インスペクションデータの分析・評価 レビュー促進するには 演習《職場でのレビューの必要性》  <p>詳細はこちら</p>
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	20名
開催予定日	10月22日(木)～10月23日(金)
開講決定日	10月8日(木)

SS2 ソフトウェアテスト設計のための、テスト技法の基本 システム開発におけるテスト技法(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアテストシンポジウム (JaSST) やテスト設計コンテストを主催・運営するNPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER) がコーステキスト構築と研修実施を担当する「テストエンジニア研修コース」である。 テスト技術者資格認定JSTQB Foundation Levelシラバスをほぼ満たしており、若干の追加学習でJSTQB Foundation Level受験に臨むことができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なテスト設計技法を習得する。 対象ソフトウェアの特性に応じた効果的なテストを実施するための、テスト設計のポイントを学ぶ。 ソフトウェアテストの意図、切り口、実施時期、内容を適切に設計できるようになることを目標とする。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ITSS ソフトウェア開発レベル1～3（または4） ETSS テストエンジニア レベル1～3（または4） ともに、ソフトウェアテスト設計技法を体系的に学びたい方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> 演習の中で簡単なプログラムを扱うので、プログラムの論理を読みとる基本的なスキルを有すること。（但し、プログラムを作成するスキルの有無は問わない。） 2進数などコンピュータサイエンスの基礎知識を有すること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> テストの目的とソフトウェア開発の現状 テストの全体像とテスト運営 テスト設計（講義、演習） テスト技法 同値クラス・境界値テスト（演習）・制御パステスト（演習）・データフローパステスト デジモンテーブルテスト（演習） <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> テスト技法の続き 状態遷移テスト（演習）・全ペアテスト（演習）・ユースケーステスト・システムテスト シナリオテスト・性能テスト・負荷テスト・回帰テスト・経験ベースのテスト技法 不具合管理（演習）  <p>詳細はこちら</p>
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	16名
開催予定日	8月4日(火)～8月5日(水)
開講決定日	7月21日(火)

SS3 顧客に無くてはならない存在になる! (顧客価値を提供し、顧客満足を得る) 成功するプロジェクトのための要求引出しと要求分析(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 顧客価値を実現する要求を引き出し、ムダのないプロジェクト運営を実現する講座である。 顧客との信頼関係を築き、無くてはならない存在となるよう、ビジネスアナリシスのスキルを参考にします。 グループ討議と演習に時間を割く参加型の研修である。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 要求のレベルと備えるべき品質とを理解し、ムダを省けるようになる。 プロジェクトを安定させ顧客の期待をマネジメントできるようになる。 真のニーズを引き出す方法を演習により形式知・暗黙知として理解する。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 要求取扱い能力を高めムダのないプロジェクト運営を実現したい方（営業担当もOK） 発言・討議からいろいろな気づきを得たい方
前提知識	要求引出しや分析の経験又は関心があること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 要求上の問題点 <ul style="list-style-type: none"> どのような問題が発生しているか（討議と振り返りを通しての理解） 要求問題の原因を分析する 要求のレベルを捉え、備えるべき品質を考える 課題解決の論理的アプローチ（討議と振り返りを通しての理解） <ul style="list-style-type: none"> 真のニーズを引き出すための質問方法とアプローチ方法を考える <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 顧客課題解決演習 <ul style="list-style-type: none"> 情報収集と整理、外部環境・内部環境を整理する 情報分析、SWOT/ビジネスモデル・キャンパスを作成する 解決策（戦略）を策定する 振り返りとまとめ  <p>詳細はこちら</p>
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	16名
開催予定日	9月24日(木)～9月25日(金)
開講決定日	9月10日(木)

SS4 負けプロジェクトから勝ちプロジェクトへ! システム開発におけるプロジェクトのムダの顕在化と削減(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議でお互いにあるべき姿を提案し、失敗プロジェクトの原因を見出す。 いくつかの課題を設定し、グループ討議や全体討議をしっかりと行う。 「なぜ」と考えることと「あるべき姿」を追究する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> PMBOK®ガイド の各知識エリアにおけるプロセスを、ロスコストの視点で考察し、新たな知識・教訓を得る。 あるべき姿を常に意識し、問題発見・問題解決の実現に向けて進むことができるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメントの経験が3年以上ある方（営業担当もOK） 発言・討議からいろいろな気づきを得たい方
前提知識	プロジェクトマネジメント又は営業の経験が3年以上のこと
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 負けプロジェクトのトリガーポイント <ul style="list-style-type: none"> リスクとリスクドライバー、あなたはリスクドライバーになっていないか 無駄ななぜなぜ分析/なぜなぜ分析の前にすべきこと リーン開発とロスコスト・マネジメント <ul style="list-style-type: none"> あるべき姿を意識する ムダを省くために問題を正しく認識する <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 要求、契約のあるべき姿 <ul style="list-style-type: none"> なぜRFPが重要か、契約が重要か 民法改正の影響は 勝ちプロジェクトにするために（ビジネスアナリシスの基本） 振り返りとまとめ  <p>詳細はこちら</p>
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	16名
開催予定日	10月26日(月)～10月27日(火)
開講決定日	10月12日(月)

◆プロジェクトマネージャ育成コース

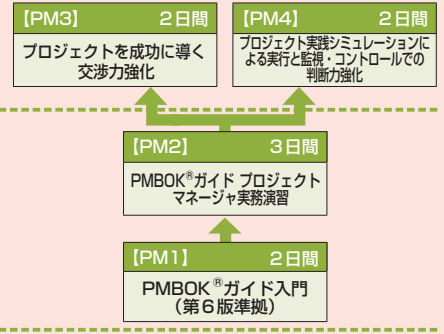
【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、組込み系及びエンタープライズ系の技術者育成に共通する中小規模のシステム開発プロジェクトをマネジメントする上で、必要な原則を理解し自らのキャリアを活用し、業務上の課題解決をリードできる人材です。また、すべての講座は、PMI®(プロジェクトマネジメント協会)のPDU対象予定*1)の講座です。PMP®資格維持のためのPDU、又はPMF®資格試験受験のための事前学習時間を取得することが可能です。

(※1) PMIの登録教育プロバイダ(R.E.P.)の制度が2020年7月1日より大きく変更されます。変更後の制度に合わせたPDU又は学習時間証明を発行できる予定です。

【コース体系】

(レベル)
L4
経験の知識化と応用ができる



L3
単独で仕事をこなせる

PM1	【情報処理試験にも役立つ】リーダーやPMとなるための基礎用語・基礎知識を習得する! PMBOK®ガイド入門(第6版準拠)(2日間)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識・基礎用語のみでなく、気付きや納得も得られる。 要所所で振り返りの理解度確認を行い、基礎知識・用語の定着を図る。 情報処理試験におけるプロジェクト関連の知識も得られる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> PMBOK®ガイドが示すフレームワークと知識エリアを学習し、ガイドの位置付けを理解する。 PMの基礎用語・知識を習得する。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネージャ又はプロジェクトリーダーとしてプロジェクトマネジメントを行おうとする方、或いは知識を整理したい方 プロジェクトメンバとしてプロジェクトの運営に貢献しようとする方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの開発プロジェクトに参加経験があること。 システム開発に関するごく一般的な基礎知識を持っていること。(知識・経験が不足していると自覚される場合は、「世界一わかりやすいプロジェクトマネジメント」等の参考図書を通読のこと。)
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメントとは PMBOK®ガイドとは、標準と実務ガイドの違い プロジェクトの運営環境、プロジェクト・マネージャの役割 統合マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ スコープ・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ スケジュール・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> コスト・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ 品質マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ 資源マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ コミュニケーション・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ リスク・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ 調達マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ ステークホルダー・マネジメントは何を目的としているか、ポイントと用語を学ぶ <p>詳細はこちら</p>
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	16名
開催予定日	10月13日(火)~10月14日(水)
開講決定日	9月29日(火)

PM2	振り返りと気付きで、プロジェクトマネジメントの品質を高めよう! PMBOK®ガイドプロジェクトマネージャ実務演習(3日間)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 近年、話題になることのできる多いプロジェクトのムダという切り口で、知識エリアごとに実務を振り返りできる。 実際のプロジェクト運営について振り返ったり考えたりすることにより、実務レベルでの学習ができ、気付きも得られる。 グループ討論を行った後に講義・解説を行う形式を繰り返すアクティブ・ラーニング講座で、プロジェクトマネジメントの要点を実践的に学ぶことができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 身につけてしまったマネジメントのクセや視野の偏りを補正し、仕事にフィードバックする。 現場でのプロジェクト遂行の実践力・応用力を強化し、自らマネジメントの改善ができるようになる。 プロジェクトマネジメントの本質を考え、「理解・納得・行動・評価」を繰り返すようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトマネージャ、リーダー又はメンバとして積極的にプロジェクトに参加し、プロジェクトの改善に興味のある方 プロジェクトマネジメントの視野を広げたい、他人と知恵を交換したい方
前提知識	プロジェクトマネジメントの現実を振り返り、話すことができること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトマネジメントでのムダとは 調達マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ 統合マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ スコープ・マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> コスト・マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ 品質マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ スケジュール・マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 資源マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ リスク・マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ コミュニケーション・マネジメントおよびステークホルダー・マネジメントの視点での実務の振り返り討論と意識づけ <p>(グループ討論の状況によっては順序の変更や内容の一部割愛もあります)</p> <p>詳細はこちら</p>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	16名
開催予定日	9月8日(火)~9月10日(木)
開講決定日	8月25日(火)

各チームのリーダーは「問題ありません」の一点張り

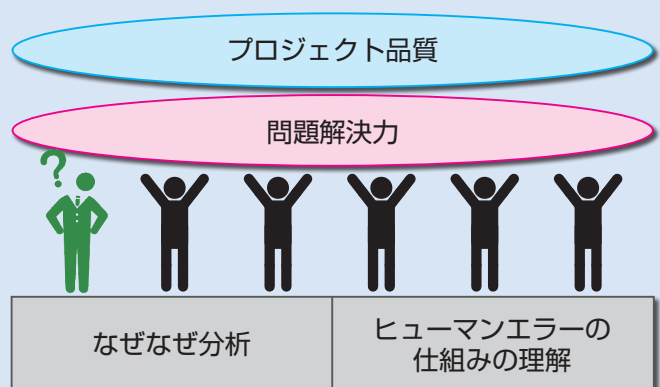
このような状況で、あなたならどう判断し対応しますか？

問題が起らないプロジェクトはありません。この状況は実は大問題であり、適切に対応しなければプロジェクトの失敗に繋がります。

プロジェクトマネージャは、メンバーが問題解決力を発揮できるよう育成しなければなりません。そのためには、先ず自らが問題解決を実践するための正しい「なぜなぜ分析」ができるようになる必要があります。また、「問題」は人の不適切な判断や行動からも起きるため、「ヒューマンエラー」の仕組みと一緒に理解するとより効果的です。

プロジェクトマネージャは、ビジネスアナリシス(BA)の基本を理解することが求められています。

PMBOK®ガイドを学び実践しているプロジェクトマネージャの方!BAの基本であるビジネス要求を演習を通じて理解する講座「成功するプロジェクトのための要求引出しと要求分析」(SS3)や、ロスコストの視点からプロジェクトのあるべき姿を考える講座「システム開発におけるプロジェクトのムダの顕在化と削減」(SS4)を受講し、メンバーと協力してプロジェクトの品質を高めてください。



◆ プロジェクトマネージャ育成コース

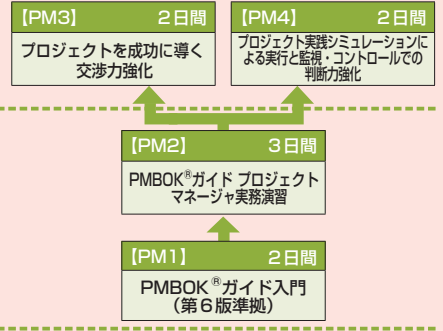
【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、組込み系及びエンタープライズ系の技術者育成に共通する中小規模のシステム開発プロジェクトをマネジメントする上で、必要な原則を理解し自らのキャリアを活用し、業務上の課題解決をリードできる人材です。また、すべての講座は、PMI®(プロジェクトマネジメント協会)のPDU対象予定*1の講座です。PMP®資格維持のためのPDU、又はPMP®資格試験受験のための事前学習時間を取得することができる予定です。


(※1) PMIの登録教育プロバイダ(R.E.P.)の制度が2020年7月1日より大きく変更されます。変更後の制度に合わせたPDU又は学習時間証明を発行できる予定です。


【コース体系】

(レベル)
L4
経験の知識化と応用ができる



L3
単独で仕事をこなせる

交渉で無くてはならない存在になる! プロジェクトを成功に導く交渉力強化 (2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 個人演習・グループ演習のほか、ロールプレイと振り返りにより、気付きを得る研修である。 プロジェクトにおける交渉のプロセスと重要ポイントを導き出すことができる。 交渉を成功させるための準備の重要性を認識し、その内容を導き出す力を鍛える。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 安易な合意に満足せず、合意の質を追求する習慣をつける。 交渉をプロジェクトと考え、交渉のプロセスをマネジメントできるようになる。 プロジェクトのムダを発生させない交渉力をつける。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 交渉力を高め、無くてはならない存在になりたい方 交渉を通してプロジェクトをリードし、顧客価値の実現に貢献しなければならない立場の方 交渉を苦手としているが、苦手意識を克服したい方
前提知識	特になし
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ビジネス交渉とは IT実務ケースを題材に合意の質を追求する(準備段階) IT実務ケースを題材に合意の質を追求する(実行段階) <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> IT実務ケースでのロールプレイ実施 ロールプレイの振り返り 振り返りを踏まえた2回目ロールプレイ実施 振り返り 汚い手などへの対応 今後に向けての個人としての課題の洗い出し <div style="text-align: right;">  <p>詳細はこちら</p> </div>
受講料	61,000円(消費税10%・教材費込み)
定員	16名
開催予定日	10月5日(月)~10月6日(火)
開講決定日	9月18日(金)

PMとしてどう働き、どう判断するか? 意思決定がプロジェクトを左右する! プロジェクト実践シミュレーションによる 実行と監視・コントロールでの判断力強化(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 臨場感溢れたプロジェクト・シミュレーションにより、総合的なPMとしての判断力・統率力を高める(シミュレーション・ソフトウェアはONTRACKを使用)。 「計画時」だけでなく、「実行時」のチーム・ビルディング及び進捗管理について、実践的に学習できる。 研修でしか許されない「失敗」(及び「成功」)を振り返ることで、失敗からの学びができる(現場に置き換えて考えることにより、気付きの質を高める)。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りレポートの作成を通じ、顕在化した問題の原因分析力の質を高める。 プロジェクトに負の影響を与える自身の傾向を認識し、改善の指針を得る。 プロジェクト状況に対して下す判断の基準を持てるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 体験シミュレーションによってプロジェクトマネジメント力を強化したいプロマネ又はリーダー 失敗からの気付きを得たいプロマネ又はリーダー(いずれも候補者を含む)
前提知識	<p>下記のいずれかを満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「PMBOK®ガイド 入門」を受講済みか同等の知識があること。 小規模でもよいので、マネジメントあるいはリーダーの経験があること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション PM知識の整理 リソース割当ておよびコミュニケーション等の計画 シミュレーション・プロジェクトの実行(前半) 前半の結果の整理と報告 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 前半での決定事項等の振り返り 振り返りに基づく後半の再計画 シミュレーション・プロジェクトの実行(後半~完了) 後半の結果の整理と報告 後半での決定事項等の振り返り 全体の振り返りと整理 <div style="text-align: right;">  <p>詳細はこちら</p> </div>
受講料	61,000円(消費税10%・教材費込み)
定員	16名
開催予定日	11月18日(水)~11月19日(木)
開講決定日	11月4日(水)

● 昨年度の受講者の声

- ・とてもわかりやすい内容で演習も他社の意見を聞くことができとても参考になりました。
- ・実践的で非常に有意義な研修であったと思います。
- ・実習メインかつ、実態に即した考え方を促していただいたこともあり、有意義な研修であったと感じております。
- ・PMBOKのテキストでは理解が難しいと思われましたが、サブテキストが大いに理解の助けになりました。
- ・今までプロジェクトマネジメントで使ってきた技法やツールが多くあり、自分の業務にあてはめながら再確認できた。

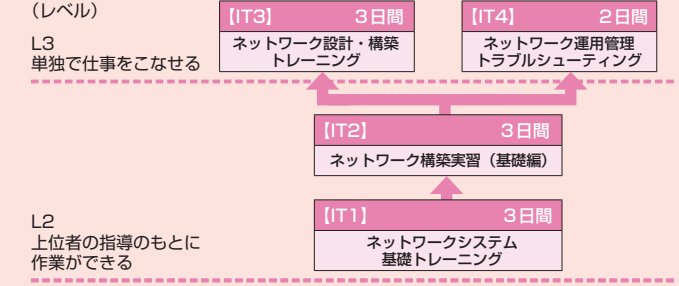


◆ ICT スペシャリスト育成コース 《ネットワーク標準コース》

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、中小規模のネットワークシステムにおいてベースとなる技術を用いたネットワークの設計・構築・運用ができ、ユビキタス社会でのネットワーク敷設や、業務上の課題解決をリードできる人材です。最新のネットワーク技術の動向を学ぶと共に、ネットワークシステムの基本であるスイッチ、ルータ、VPNの技術を基盤に、設計・構築・運用に必要な知識や技術を習得します。

【コース体系】



IT1 ネットワークシステムをマイクロ視点・マクロ視点で理解する ネットワークシステム基礎トレーニング(3日間)	
特徴	「クライアント」・「LAN・WAN/インターネット」・「セキュリティ」・「サーバ/アプリケーション」の視点で順番にいろいろな機能を確認できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークシステムの各技術の連携を実感・体感し、システムが複数の技術で成り立っていることを理解する。 ネットワークシステム全体を見渡す視点を持ち、設計、構築、トラブルなどを考えることができるようになる。
対象者	システム構築においてシステム全体的な提案・営業活動等に携わる方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> Windows操作ができること。 TCP/IPの基礎知識があること。 サーバ/クライアントモデルの通信概要 (Web, FTP, Telnetなど) について理解していること。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 技術区分【クライアント】 技術区分【LAN】 技術区分【WAN/インターネット】 技術区分【セキュリティ】 技術区分【サーバ/アプリケーション】 <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 技術区分【クライアント】 技術区分【LAN】 技術区分【WAN/インターネット】 技術区分【セキュリティ】 技術区分【サーバ/アプリケーション】 <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 技術区分【クライアント】 技術区分【LAN】 技術区分【WAN/インターネット】 技術区分【セキュリティ】 技術区分【サーバ/アプリケーション】
受講料	112,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	6月24日(水)～6月26日(金)
開講決定日	6月10日(水)



詳細はこちら

IT2 最新技術の動向の把握とスイッチ、ルータ、ファイアウォールの操作と構築技術を習得する ネットワーク構築実習(基礎編)(3日間)	
特徴	スイッチ、ルータ、ファイアウォール等の3種類のネットワーク機器を設定、確認できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> L2機器、L3機器、ファイアウォール機器の基本的機能を把握することができるようになる。 中小規模におけるネットワーク構築や設計、トラブルシューティングができるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの設計/構築業務/運用保守管理に携わる方 フロントSEとしてフロント側と技術面の両方に携わる方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> IT1を修了又は同等の知識があること。 TCP/IPの基礎 (IP, ARP, ICMP, TCP, UDP) を理解していること。 ネットワーク機器の操作経験のあること。
内容	<p>[1日目]</p> <p>第1章：LAN構築① エッジの機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1：Link Aggregation 1-2：VLAN 1-3：ループ対策 1-4：EPSR 1-5：VRF-Lite (デモ) <p>[2日目]</p> <p>第2章：LAN構築② コアの機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1：ルーティング 2-2：Dynamicルーティング (RIP) 2-3：スタック接続 <p>第3章：インターネット、WANの接続</p> <ol style="list-style-type: none"> 3-1：PPP over Ethernet 3-2：ファイアウォール <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 3-3：VPN <p>第4章：アクセス回線網</p> <ol style="list-style-type: none"> 4-1：IPv6 4-2：NGN
受講料	112,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	7月8日(水)～7月10日(金)
開講決定日	6月24日(水)



詳細はこちら

IT3 中小規模のネットワークを完全把握する ～ネットワーク設計から構築まで～ ネットワーク設計・構築トレーニング(3日間)	
特徴	ネットワークの設計に必要なことを学び、演習や実習を通して設計、構築、動作確認を実施できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーズを把握し、技術的視点で各設計技法について把握することができるようになる。 設計段階で作成した各種ドキュメントを参照し、ネットワークの構築ができるようになる。
対象者	ネットワークの設計/構築業務に携わる方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> IT1、IT2を修了又は同等の知識があること。 TCP/IPの基礎 (IP, ARP, ICMP, TCP, UDP) を理解していること。 スイッチ、ルータ、ファイアウォール機器操作の経験があること。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> ネットワークシステム設計 (物理～論理) ネットワークシステム構築 <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> ネットワークシステム運用・保守 ネットワーク構築事例 ロールプレイングの説明 ロールプレイング (設計、プロトタイプ構築) <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> ロールプレイング (プロトタイプ構築 (続き)、全体的な動作確認)
受講料	112,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	10月21日(水)～10月23日(金)
開講決定日	10月7日(水)



詳細はこちら

IT4 運用管理・トラブルシューティング技術を磨く ネットワーク運用管理・トラブルシューティング(2日間)	
特徴	実際に起こりうる可能性のあるトラブルを、受講者自身に解決してもらう。
目標	<ul style="list-style-type: none"> OSI参照モデルの各階層において、注意する点を理解する。 ネットワークトラブルにおけるアプローチ手法、切り分け技術を身に付ける。 プロトコルや各種ネットワーク技術の特性により発生するトラブルに対して対処することができるようになる。
対象者	ネットワークの運用保守管理に携わる方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> IT1、IT2を修了又は同等の知識があること。 TCP/IPの基礎 (IP, ARP, ICMP, TCP, UDP) を理解していること。 スイッチ、ルータ、ファイアウォール機器操作の経験があること。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> ネットワークのライフサイクル ネットワークドキュメント トラブルシューティング手順 問題の切り分け技法 範囲の特定技法 <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 診断ツール L1における障害、トラブル L2における障害、トラブル L3/4における障害、トラブル 上位層における障害
受講料	91,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	12月17日(木)～12月18日(金)
開講決定日	12月3日(木)



詳細はこちら

ICT スペシャリスト育成コース クラウドフォーLinuxサーバーコース クラウドフォーWindows Serverコース

【研修概要】

Linuxコースで目標とする人材像は、Linuxシステムにおける設計・構築・運用面で自らのキャリアを活用することによって、独力で業務上の課題解決をリードできる人材です。コース内容は、Linuxサーバを構築・運用していく上で必要となる基盤技術を習得します。

Windows Serverコースで目標とする人材像は、Windows Serverのシステム管理者として必要な管理の基本、Active Directoryの構築と運用方法、仮想化技術の基礎を習得し、業務上の課題解決をリードできる人材です。Microsoft Azure上にWindows Serverシステムを構築するカリキュラムで、ITインフラの構築及び運用についての基礎技術を習得し、ID管理・情報セキュリティの重要性和運用方法を理解します。

【コース体系】

(レベル)


L3
単独で仕事をこなせる


[IT6] 3日間
Linuxサーバ・システム管理


L2
上位者の指導のもとに作業ができる

[IT5] 3日間
Linux 基礎と基本概念

[IT7] 3日間
Microsoft Azureを利用したWindows Serverの基礎

IT5 Linuxサーバの運用・保守で知っておきたい “Linuxの仕組みと概念・操作” Linux基礎と基本概念 (3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 運用・保守を前提に、コマンドラインでの操作実習を行う。 ファイルシステムとプロセスとの関係に重点をおき、アクセス権限についての基本を習得する。 操作面では管理作業が必要となる正規表現を取り扱う。
目標	<ul style="list-style-type: none"> Linuxサーバを運用・操作する際の基礎的な知識を修得する。 日頃のサーバ運用・保守で実行していることの意味が分かるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> Linuxの運用や保守を担当し、作業内容の意味や仕組みを理解したい方 Linuxサーバを用いたシステムを運用・保守する予定の方 (多少の操作経験があればLinux初心者でも構わない)
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> コマンドラインの操作経験 (Windowsのコマンドプロンプトでも可) があること。 プログラムの基本的な動作原理 (ファイルとプロセスの違い程度で可) を知っていること。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> Linuxとは/ディストリビューションとは 代表的なコマンドの操作と内部の仕組み ユーザとグループ プロセスとは/標準入出力とリダイレクト、パイプ Linuxのファイルシステムの概要とアクセス権限 プロセスとファイルシステム <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> シェルとは/シェル変数と環境変数 viの基本的な使い方 正規表現の演習 (grepによるパターン抽出) <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 正規表現の演習 (sed等による自動テキスト加工・実行) プロセスのファイルアクセス権限 シェルスクリプトとは/シェルスクリプトの動作原理  <p>詳細はこちら</p>
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	9月1日(火)~9月3日(木)
開講決定日	8月18日(火)

IT6 インストールから始める! Linuxサーバ運用・保守のための基本的な仕組みと考え方 Linuxサーバ・システム管理 (3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> サーバ運用・保守のための基本的な考え方や管理技法等、システム管理者としての基礎知識を学ぶ。 仕組みを学習・理解することを狙い、実務でも役立つものとするため、コマンドライン操作を主とする。 直接Linuxマシンで操作するほか、Windowsマシンからも操作して、通常の管理業務と同じような環境で演習できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> Linuxサーバを運用・保守するための基本的なシステム管理技法の知識を修得する。 日頃のサーバ運用・保守で実行していることの意味が分かるようになる。(2020年度はCentOS 7を主対象とする)
対象者	<ul style="list-style-type: none"> Linuxの運用や保守を担当し、作業内容の意味や仕組みを理解したい方 Linuxサーバを用いたシステムを運用・保守する予定の方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> IT5を修了していること。 又は 下記のいずれも満たすこと。 プロセスの概念、及びプロセスとファイルシステムとの関連について、ある程度理解できていること。 vi (vim) で、数行程度ならばファイル編集ができること。 *vi (vim) の使用経験がない場合は、基本的な使い方 (数行のテキスト編集と検索) について要事前学習。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> CentOSをインストールする パッケージ管理 ユーザ管理/グループ管理 <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> Linuxシステムの起動とアプリケーションの起動・停止 ファイルシステムのマウント コマンドの定期実行/その他のプロセス管理 ログ管理 <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> SSH ネットワーク設定 ファイアウォール設定とセキュリティ  <p>詳細はこちら</p>
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	8名
開催予定日	9月29日(火)~10月1日(木)
開講決定日	9月15日(火)

IT7 Azureでできる! Windows認証システムの構築からBCP対策まで Microsoft Azureを利用したWindows Serverの基礎 (3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Azureの基礎を理解することができる。 Active Directory運用管理の基礎を理解することができる。 ハンズオントレーニングを中心としたカリキュラムである。
目標	<ul style="list-style-type: none"> Windows Serverの構築方法を習得する。 Active Directoryを構築して、ID管理の基礎を習得する。 サーバのBCP対策手法を習得する。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 認証基盤の構築を予定している方 Microsoft Azureの技術動向に興味のある方 PowerShellの基礎技術習得に興味のある方
前提知識	Windows ServerやWindowsクライアントの基礎知識・操作経験のあること。
内容	<p>[1日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> Microsoft Azureの概要 1.5 Hyper-V Azureの仮想ネットワークとは 3. Azure仮想マシンの概要 Azureポータル操作 5. 仮想ネットワークの構築 6. 仮想マシンの構築 <p>[2日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. Active Directoryの概要 8. Azureを利用したバックアップとサイトリカバリーの概要 9. Active Directoryの構築 10. ファイルサーバの構築 11. バックアップとサイトリカバリー <p>[3日目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. Active DirectoryとAzureADとの連携 13. PowerShellを使ったID管理 14. Azureの管理ツールについて 15. AADConnectの導入とID連携 16. PowerShellを使ったID管理 (登録・変更・削除) 17. Azure標準の管理ツール  <p>詳細はこちら</p>
受講料	91,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	10月28日(水)~10月30日(金)
開講決定日	10月14日(水)

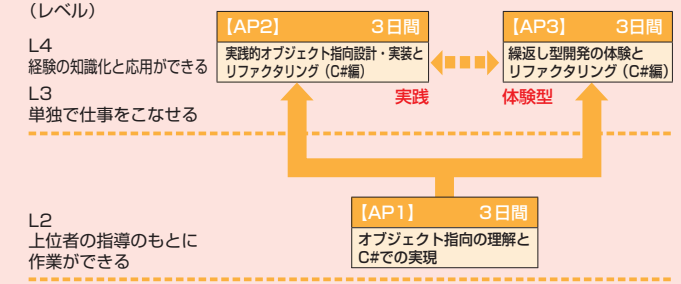
◆ アプリケーションスペシャリスト育成コース (アジャイル時代オブジェクト指向コース)


【研修概要】


現在の開発の現場ではオブジェクト指向開発が求められています。特に、モバイル開発ではオブジェクト指向の理解は必須となっているものの技術者が追いついていない現実があり、赤字やユーザーニーズを満たせないプロジェクトが多発しています。


本コースで目標とする人材像は、オブジェクト指向を用いたシステムの設計・構築において、自らのキャリアを活用することによって、業務上の課題発見や解決をリードできる人材です。オブジェクト指向開発における設計・実装フェーズに関して、その概念と手法に関する実践的なスキルを原理の理解や体験を通して身に付けます。

【コース体系】



AP1 オブジェクト指向の考え方を理解してC#を使おう！ オブジェクト指向の理解とC#での実現 (3日間)	
特徴	・How-Toではなく、Why/Whatの視点によりオブジェクト指向の考え方・捉え方を学ぶ。 ・オブジェクト指向の概念要素とC#の言語要素との対応付けを理解できる。 (「C#の入門講座」ではない)
目標	・言われるままに書いていたコードの意味が理解できるようになる。 ・オブジェクト指向設計の主旨を理解して、C#での実装ができるようになる。 ・なぜ「そうなのか」、「そうするのか」を考えた実装ができるようになる。
対象者	・C#での開発に従事し、C#とオブジェクト指向とを突き合わせて理解したい方 ・C#の基本文法については既知であり、C#でこれから開発を行う方 ・表面的な文法を学ぶということではなく、「なぜ/どうして」という観点から学習したい方
前提知識	下記のいずれかを満たすこと。 ・C#での変数宣言や制御構造などの基本文法の知識があり、簡単なプログラムを作成できること。 ・C#、Java、またはC++での開発経験があること。 ※C#でのプログラム作成経験がない場合は、要事前学習(入門書レベル)。
内容	[1日目] 1. NET Framework と C# 2. オブジェクト指向概論-1 (クラスとインスタンス) 3. クラスと型、フィールド/メソッド/プロパティ 4. インスタンスの生成と初期化、newとは何か [2日目] 1. staticの意味と関連するもの 2. オブジェクト指向概論-2 (クラス間の関係) 3. 継承とオーバーライド、抽象メソッドと抽象クラス 4. 継承と委譲、そのメリットとデメリット、継承から委譲への変換 [3日目] 1. 構造化例外処理 2. インターフェイス、インターフェイスはなぜ必要なのか 3. デリゲートとイベント  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	6月30日(火)～7月2日(木)
開講決定日	6月16日(火)

AP2 仕様変更・仕様追加の結果、メンテ不能になるようなコードとさようなら！ 実践的オブジェクト指向設計・実装とリファクタリング(C#編) (3日間)	
特徴	・オブジェクト指向の要素を組み合わせて設計・実装する考え方、方法を学ぶ。 ・事例を題材としてオブジェクト指向的設計を考え、リファクタリングによる保守性向上を目指す。 ・インターフェイスや継承等を効果的に活用する考え方を理解し、実践力を養う。
目標	・設計の意図を理解した実装ができるようになる。 ・保守性を考慮した設計・リファクタリングができるようになる。
対象者	・オブジェクト指向の実践的な設計・実装を学び、保守性を考慮した設計や実装あるいはリファクタリングを行いたい方 ・仕様追加・仕様変更等の結果、「よく似たソースコードが沢山できてしまった」或いは「if文で違いを切り分けた箇所が大量にある」などにより、その後の保守が大変になってしまったことに疑問を持っている方
前提知識	・オブジェクト指向の基本的な知識 (AP1 修了程度) があること。 ・継承やインターフェイス等を用いた、基本的なオブジェクト指向プログラミングをすることができること。 ※「C# (またはJavaやVB.NET) で継承やインターフェイスを用いたプログラムの記述経験」「C#でのプロパティに関する知識」がない場合は要事前学習。
内容	[1日目] 1. オブジェクト指向とC# 2. 再利用性に対する手始めの課題と検討 (継承、委譲、インターフェイスを使う) 3. オブジェクト指向設計の原則とは 4. 安定と不安定とを切り分けて保守性を上げる [2日目] 1. イテレータとC#のコレクションフレームワーク 2. クラスを責務で分離し、安定同士で結合することにより保守性を上げる 3. オブザーバとC#のイベントモデル [3日目] 1. フレームワークの抽象化を行う 2. 構造と振舞いを分離する*  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	7月28日(火)～7月30日(木)
開講決定日	7月14日(火)

AP3 仕様変更に負けないために！ 繰返し型開発の体験とリファクタリング(C#編) (3日間)	
特徴	・ウォーターフォール型開発と繰返し型開発とのシステム開発の考え方の違いを学習する。 ・事例を題材に、繰返し型での仕様追加・変更を体験する。 ・数名のグループで分析・設計・実装というワークを実施する体験型の講座である。 ・研修なので、改造に失敗したとしても失敗から学ぶことができる。
目標	・繰返し型開発には様々なタイプがあることを理解する。 ・ウォーターフォール型開発でのオブジェクト指向的な開発手法を理解する。 ・繰返し型開発を事例で体験し、ウォーターフォール型開発との違いを理解する。
対象者	・既にウォーターフォール型での開発経験があるが、これから繰返し型の開発も行う方 ・AP2の修了者で、繰返し型開発の体験をしたい方
前提知識	・オブジェクト指向の基本的な知識 (AP1 修了程度) があること。 ・C#で基本的なオブジェクト指向プログラミングができること。
内容	[1日目] 1. ウォーターフォール型開発の問題点 (メリット/デメリット) 2. ウォーターフォール型開発と繰返し型開発の違い、アジャイル型開発とは 3. 要求分析とシステム分析をウォーターフォール型と繰返し型で比べてみる 4. 繰返し型開発としての上流工程演習 [2日目] 1. 繰返し型開発を行うためにオブジェクト指向の概要を振り返る 2. クラス設計の原則とクラス図の利用 3. 繰返し型開発事例演習 1 [3日目] 1. 繰返し型開発事例演習 2 2. 振り返りとまとめ  詳細はこちら
受講料	66,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	11月25日(水)～11月27日(金)
開講決定日	11月11日(水)

◆ アプリケーションスペシャリスト育成コース (Webアプリケーション開発コース)

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、オブジェクト指向システムの設計・構築において、自らのキャリアを活用することによって、独力で業務上の課題発見や解決をリードできる人材です。Webアプリケーション開発を事例に、現場で使えるようになるための一貫したシステムを実際に作ることによって学習します。

【コース体系】

(レベル)

L3
単独で仕事をこなせる

[AP5] 2日間
Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策

L2
上位者の指導のもとに作業ができる

[AP4] 3日間
Webアプリで学ぶオブジェクト指向とJavaプログラミング基礎

AP4 「どう書くか」ではなく「どう考えるか」を身に付ける! Webアプリで学ぶオブジェクト指向とJavaプログラミング基礎(3日間)	
特徴	・Webアプリを題材として、オブジェクト指向の概念とJavaでの実装方法を理解する。 ・How-Toではなく、Why/Whatの視点によりオブジェクト指向の捉え方、およびWebアプリの考え方を学ぶ。 (「Webアプリの入門講座」であり「Javaの入門講座」ではない)
目標	・オブジェクト指向に基づく設計の意図を理解し、Javaでの実装ができるようになる。 ・言われるままに書いていたコードの意味を理解し、なぜ「そうなのか」、「そうするのか」を考えられるようになる。
対象者	・これからJavaでWebアプリケーションを開発を行う、又は既に開発している方 ・表面的な文法を学ぶということではなく、「なぜ/どうして」という観点から学習したい方 ・提案等のために、Webアプリの基本的な仕組みを知りたい方
前提知識	下記のいずれかを満たすこと。 ・Javaでの変数宣言や制御構造などの基本文法の知識があり、簡単なプログラムを作成できること。 ・Java、C#、またはC++での開発経験があること。 ※プログラムの作成経験がない場合は、要事前学習。
内容	【1日目】 1. JavaとWebアプリとオブジェクト指向-何から押さえていけばいいのか- 2. Webアプリとは 3. オブジェクト指向概論-1 (クラスとインスタンス) 4. サンプルで考えるクラスと型、フィールド/メソッド 5. クライアントからのリクエストを処理する 【2日目】 1. オブジェクト指向概論-2 (クラス間の関係) 2. 継承と委譲、そのメリットとデメリット 3. GetとPostをオブジェクト指向の観点から考える 4. JSPの利用とMVCモデルを考える JSP、サンプル、Javaクラスの役割を意識する 5. 変数のスコープ、Webアプリのスコープ (セッション管理) 【3日目】 1. 構造化例外処理 2. インターフェイス、インターフェイスはなぜ必要なのか 3. JDBCとDAO 4. 総合演習
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	8月26日(水)～8月28日(金)
開講決定日	8月12日(水)



詳細はこちら

AP5 知らずにつくると怖いWebアプリケーション Webアプリケーション開発のための情報セキュリティ対策(2日間)	
特徴	・Webアプリケーションシステムの脆弱性が原因で発生するWebページの改ざん、情報漏えい、利用者に被害が及ぶ攻撃を実機を通して体験的に学習する。 ・グループディスカッションで問題対策技術を話し合うことにより、必要なWeb技術をより深く理解する。
目標	・セキュリティを意識した上流設計ができるようになる。 ・Webアプリケーションのセキュリティコーディングができるようになる。 ・Webシステムのセキュリティ設定、運用ができるようになる。
対象者	Webアプリケーション設計者/開発者/SE
前提知識	ネットワークに関する基本的な知識があり、Webアプリケーション開発 (Java、PHP等) の経験があること
内容	【1日目】 1. Web技術基礎 【講義/演習】 2. Webアプリケーションに関連する攻撃 3. Webサーバのセキュリティ設定 4. SSL (Secure Sockets Layer) 【2日目】 5. Webで利用されるアクセス制限 6. DNSサーバのセキュリティ 7. プロキシサーバ 8. データベース 9. セキュリティ運用
受講料	45,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	7月21日(火)～7月22日(水)
開講決定日	7月7日(火)



詳細はこちら

● 昨年度の受講者の声

- ・C#を今回の研修のために軽く触った程度でしたので、難しい箇所もありましたが、自分が使用するjavaにも結びつく箇所はあり、勉強になった点は多数あります。
- ・内容の理解に時間がかかってしまい、つまづくことが多々ありましたが、講師の方が図解や追加資料などで丁寧に教えて下さりました。ありがとうございました。
- ・(受講目的について) 弊社にも同じような内容のプログラムがいくつも作成されている事例があり、繰り返し型の開発でどのように設計、仕様変更すればよいのかを学ぶためです。



◆ アプリケーションスペシャリスト育成コース〈モバイル活用型開発入門コース〉

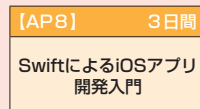
【研修概要】


システム開発段階からスマホ・タブレットの利用を想定するのが当たり前前の時代となり、スマホ・タブレットの機能を活用するアプリの開発ニーズが増加しています。しかし、Androidはバージョンや機種によって動作が異なる場合があり、OSの仕組みと動作原理をきちんと理解しながら学習しないと実務に応用できません。また、iOSは国内的にもシェアを伸ばし続けており、モバイルアプリの開発を行う場合に、市場としては無視できない対象であると言えます。


本コースでは、基本的な原理原則を習得し、デバイスの扱い方や原理等を学び、モバイルアプリケーションの開発力を身に付けます。


【コース体系】 (レベル)

L3
単独で仕事を
こなせる



AP6 発注の際にも役立つ きちんと学ぶAndroidアプリの「知識」と「考え方」! JavaによるAndroidアプリ開発入門(3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 端末開発メーカーに技術支援を行っている技術者が講師を担当する。 ・ 市販テキストや一般の研修では見落とされがちな Why/What の視点でAndroidの動作の仕組みを解説し、演習で体験確認する講座である。 ・ 開発者の視点だけでなく、発注者の視点からみた「Android」についても解説する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ Androidの基本的なコンポーネントを使ったアプリケーションを独力で作成できるようになる。 ・ 「おまじない」で終わらない、「どうすべきか」を自身で考え対応するための基礎力を身につける。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ Androidアプリケーションを開発・保守する予定の方 ・ Androidの構成と動作の仕組みを学習したい方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継承とインターフェイスの考え方を理解していること。 ・ 簡単なJavaアプリケーションの作成経験があること。 ※特にインターフェイスや匿名クラスについて、書き方・動作を理解していること。 ※Javaプログラムの作成経験がない場合は要事前学習。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モバイルOS/開発環境の種類とそれぞれの位置付け 2. Androidの概要を知る 3. Androidの基本要素を理解する (Activity、AndroidManifest、Intent) <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Androidの基本要素を理解する (Activity間の連携) 2. Androidの基本要素を理解する (Android UI、Service、BroadcastReceiver) <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本要素を用いた総合演習 2. 一歩踏み込んだAndroidアプリケーションのために必要なこと (パーミッションとセキュリティ) 3. 位置情報サービスを利用する <div style="text-align: right;">  <p>詳細はこちら</p> </div>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	9月16日(水)～9月18日(金)
開講決定日	9月2日(水)

AP7 業務効率化を加速させるモバイル技術の裏側教えます モバイル活用で加速させる業務効率化(Android編)(3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な問題を題材に、Bluetooth・Wi-Fi・センサ等を利用するための知識を学べる。 ・ 実際の端末で動作を確認することにより、より体感的に理解できる(端末は要持参)。 ・ 様々な端末での動作状況の共通点や相違点を受講者間で共有でき、開発や発注に活かせる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務上の問題や課題に対し、Androidアプリによる解決案を提示できるようになる。 ・ 業務に利用するためのアプリケーションを独力で作成できるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ Android端末を業務で活用したい方 ・ Androidを利用した業務の効率化に興味のある方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ AP6を修了していること。 又は、下記のいずれも満たすこと。 ・ Androidの基本要素(特に、Service、Intent、BroadcastReceiver)に関する知識があること。 ・ Javaを使ったAndroidアプリケーションの作成経験があること。 ※画面遷移の仕組みやIntentに関して、書き方・動作について理解していること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Androidアプリ開発のポイントを振り返る 2. その業務、コストのかかる専用端末が必要ですか? 3. Android端末を導入する際の課題 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディ:「在庫管理」の効率化(ネットワークの利用) 2. ケーススタディ:「配送状況のリアルタイム確認」の効率化(GPSの利用) <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディ:「作業員の状態確認」の効率化(センサ、Bluetoothの利用) <div style="text-align: right;">  <p>詳細はこちら</p> </div>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	11月10日(火)～11月12日(木)
開講決定日	10月27日(火)

AP8 発注時にも役立つ きちんと学ぶiOSアプリの「フレームワーク」と「考え方」! SwiftによるiOSアプリ開発入門(3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種デバイスメーカーに対してiOSの技術支援を行っている技術者が講師を担当する。 ・ “実践的かつ原理を踏まえた”解説を行う。 ・ 開発者の視点だけでなく、発注者の視点からみた「iOS」についても解説する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ iOSの特徴とアーキテクチャ、及びiOSアプリの構成要素を理解する。 ・ iOSの基本的なコンポーネントを使ったアプリケーションを独力で作成できるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ iOSアプリケーションを開発・保守する予定の方 ・ SwiftによるiOSアプリケーション開発に興味のある方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ オブジェクト指向の継承とインターフェイスの考え方を理解していること。 ・ Swift (バージョンは不問) の基本文法の知識があること。 ※Swiftプログラムを作成経験がない場合は、要事前学習(入門書レベル)
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モバイルOS/開発環境の種類とそれぞれの位置付け 2. iOSの概要と開発言語を知る 3. iOSアプリの構成要素を理解する (AppDelegate、ViewController、View) <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. iOSアプリの構成要素を理解する(画面の追加、画面遷移) 2. データ保存と永続化について考える <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応用演習 2. 気の利くアプリに向けて(アラート、アクションシート) 3. Web APIの利用 <div style="text-align: right;">  <p>詳細はこちら</p> </div>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	2021年1月13日(水)～1月15日(金)
開講決定日	12月28日(月)

◆ ヒューマンスキルコース

【研修概要】


本コースでは、プロジェクトリーダーには必須となるドキュメンテーション力、段取力、といったヒューマンスキルを理論と実践を通じて身に付けます。


【コース体系】 (レベル)

L3
単独で仕事を
こなせる

【HS1】 2日間
IT技術者のための
ドキュメンテーション

【HS2】 3日間
失敗しない
プロジェクトのための
段取力と先読み力

HS1 的確な意思疎通のための文書作成技術 IT技術者のためのドキュメンテーション(2日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤解しやすい表現、曖昧な表現を座学により学習する。 ・ 事例に従いドキュメンテーションの作成を個人ワーク、グループワークにより実施する。 ・ 講師やグループメンバーからのフィードバックを受け、自分の文章の癖を把握する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT技術者に必要不可欠な文書表現、文章作成のスキル等を理論と実践を通じて身に付ける。 ・ 技術ドキュメントとして過不足なく適切な情報量を盛り込むことができるようになる。 ・ 誤解のないシンプルで分かりやすい文章表現ができるようになる。 ・ 読み手を意識して適切な用語を使い、わかりやすい構成の文章を作成することができるようになる。
対象者	入社3年目以内程度の若手IT技術者で、業務上、文章を使ったコミュニケーション能力を必要としている方
前提知識	パソコンの基本操作、特に文章作成ツール（WordもしくはExcel）の操作ができる知識があること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 0. オリエンテーション 1. IT業界のドキュメントの大切さ 2. ドキュメント作成の手順 3. ドキュメンテーション演習（情報の整理と論理構成） 4. 文章表現 5. ドキュメンテーション演習（提案書作成） <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. ドキュメンテーション演習（提案書作成） 7. 文章作成のポイント（報告書、議事録、メール） <p style="text-align: right;"> 詳細はこちら</p>
受講料	50,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	16名
開催予定日	12月1日(火)～12月2日(水)
開講決定日	11月17日(火)

HS2 ～成功現場は「段取り8分、実行2分」、定量管理で先を読み！～ 失敗しないプロジェクトのための段取力と先読み力(3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実例に極めて近いケースを用い、カードやサイコロなどを使いゲーム形式で楽しく学ぶ内容である。 ・ 研修参加者は、ファシリテーター役を担うことで、各種会議のとりまとめ役を担う力を身につけることができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト計画が独力で立てられるようになる。 ・ プロジェクト管理のEVM分析の各種数値の意味が分かるようになる。 ・ ITプロジェクト特有のリスクとその対策方法が分かるようになる。
対象者	現在ITプロジェクトにメンバー又はマネージャとして携わっている方、或いは今後予定されている方
前提知識	システム開発プロジェクトのWBSに関する基礎知識があること。
内容	<p>【1日目】</p> <p>◎オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトマネジメントとは？【講義】 2. 日本人の得意な段取りについて【講義】 3. PMBOK第6版の解説【講義/演習】 4. プロジェクトの目的と目標【講義/演習】 5. 段階樹詳細化について【講義/演習】 6. 役割分担表の役割【講義/演習】 7. ネットワーク図【講義/演習】 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. EVMによるコントロール【講義/演習】 9. リスクマネジメントとは？【講義/演習】 10. リスク・マネジメントゲーム【演習】 <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. ケース演習①【演習】 12. ケース演習②【演習】 13. リスク管理表を持ち帰る 14. 個人で、今日からできる段取り力・先読み力向上のための「5つの習慣」【講義】 <p style="text-align: right;"> 詳細はこちら</p>
受講料	66,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	16名
開催予定日	7月15日(水)～7月17日(金)
開講決定日	7月1日(水)

● 昨年度の受講者の声

- ・ 文章の記述の仕方について、どのようなことに気を付ければよいのかを分かりやすく解説していただきました。
- ・ 文章能力の向上を目的として参加したので、目的とは合致しておりました。
- ・ 雰囲気作りにも気を遣っていただき、楽しみながら受講させていただきました。大変ありがとうございました。
- ・ プロジェクト管理をこれから担当する方や、既に担当している方に丁度良い内容だったと思います
- ・ 今後のプロジェクト管理に役立てたいと考えています。



◆ AI・IoT活用人材育成コースのご案内

近年、デジタルトランスフォーメーション（DX）が注目されており、様々な企業がテクノロジーを活用してこれまでの事業を大きく変革することの重要性が認識されています。

このDXを支えるテクノロジーとして、IoT（Internet of Things）や人工知能（AI）、さらにIoT/AIを導入したシステムやロボティクスなどが挙げられます。このような新しいテクノロジーを有効活用できるデジタル人材の不足が深刻化しており、人材育成が大きな課題となっています。

そこで、NICOの高度IT人材育成研修では、平成29年度からAI・IoT分野の人材育成を開始し、データ活用、IoT等に必要な技術、デジタルトランスフォーメーションの思考についての講座を開講しております。

令和2（2020）年度からは、ITベンダーや情報システム部門などIT専門技術者だけでなく、例えば製造業の現場担当者などAIやIoTを導入しようとする企業（ユーザー企業）の方にもご受講いただける人材育成カリキュラムを編成しました。

最先端の技術・ノウハウを学習し、実践的な体験などを通じて、新たなビジネスシーンの足がかりにいただければと思います。是非、この機会に本コースの講座をご利用ください。

①データ活用力

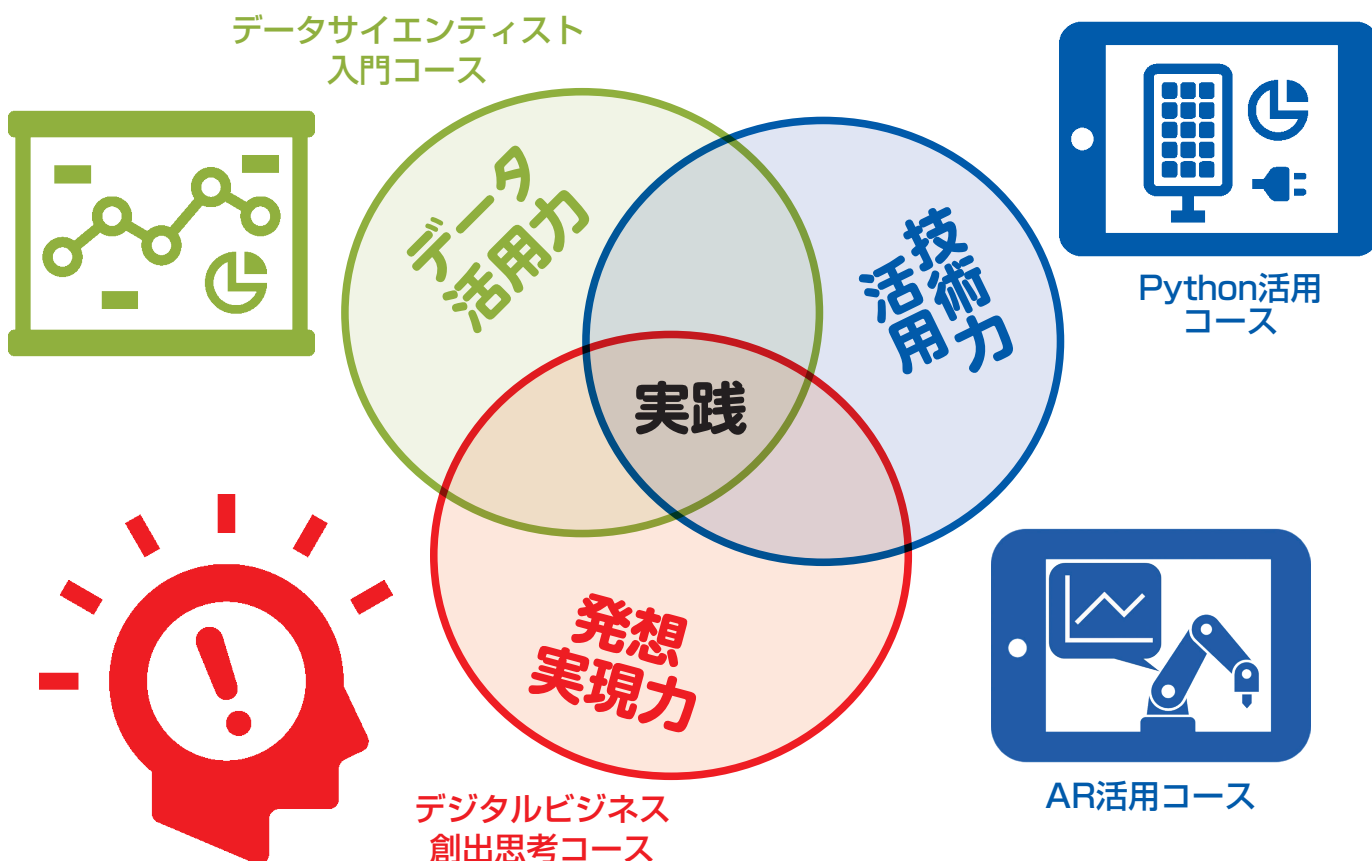
企業内の意思決定を支えるデータ活用のための基本と、プランニングについて実践的に学習。

②IoT等の活用技術

Pythonを使用したIoTデバイスを制御や、製造業のケーススタディなどを体験的に学習。

③デザイン思考、アイデア創出

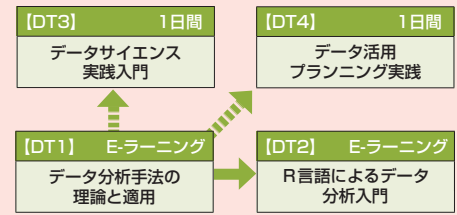
デジタルトランスフォーメーション（DX）に必要な思考を学習し、自社への適用を実践。





【研修概要】


本コースで目標とする人材像は、自社内や社外の様々なデータ（ビッグデータ）を活用し、適切な意思決定を支えるデータ活用人材です。過去の分析プロジェクトのノウハウが詰まった独自のケーススタディを体験し、問題設定から報告、提案等に至るプロセスを演習で体験するなど、より実践的な内容で構成されており、分析担当者になった想定での分析、提案、プレゼンテーションを体験したり、受講後に自社で実践する実力を身に付けていただける効果的な講座です。


【コース体系】



DT1 データ分析手法の理論と適用 (E-ラーニング)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> データ分析の理論や作業スキルに加え、各分析手法を適用する際の考え方も学習する。 データを手に入れてからレポートするまでの一連の思考と作業を、Excelを利用した演習を通して学習する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 分析の目的と仮説を分析手法適用のインプットに反映できる。 分析結果から意味を抽出し、提案や企画に活かすことができる。 統計における各種数式の意味が理解できる。 Excelを用いて効率よく分析ができる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> データ分析におけるExcel活用を学びたい方 Excel操作に留まらず、データ分析の考え方のポイントを知りたい方 「データ分析手法の理論と適用」(日立アカデミー)コースをじっくり再学習したい、集合コースを受ける前に基礎知識を身につけておきたい方 じっくり自分のペースで学習したい方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> Excelの基本的な操作経験があること 「ロジカルシンキング基礎-論理の可視化と論理チェックのポイント-」(日立アカデミー)コースを修了しているか又は同等の知識があること
内容	<ol style="list-style-type: none"> はじめに データ分析手法の分類 QC手法の適用 多変量解析の適用 確率と検定の適用 そして実務へ  <p>詳細はこちら</p>
受講料	34,485円 (消費税10%・教材費込み)
定員	—
開催予定日	随時 (平均学習時間：16時間) 2020年5月～2021年1月
開講決定日	—

DT2 R言語によるデータ分析入門 (E-ラーニング)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータを含め、様々なデータを分析し活用するためのオープンソースの統計解析パッケージ「R」の使い方を学ぶ。 データの特徴を知り、ビジネスに活用するために必要な統計学と、コンピュータで容易に統計を行うためのRの使い方を効率的に習得できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> R言語の概要、基本的な使用法を理解する。 統計学の基本的な知識を学び、データの特徴を適切に表現できる。 データに適用する統計手法を適切に判断し、R言語で分析できる。
対象者	ビッグデータを含む「データ」を分析しビジネスに活用したい方
前提知識	コンピュータの基本操作ができること。
内容	<ol style="list-style-type: none"> ビジネスとデータ分析 R言語の基本 基本統計量 Rのグラフィック機能 推測統計の基本  <p>詳細はこちら</p>
受講料	10,240円 (消費税10%・教材費込み)
定員	—
開催予定日	随時 (平均学習時間：6時間) 2020年5月～2021年1月
開講決定日	—

DT3 分析の基本的なプロセスを修得し、ビジネスデータで実践できる力を養う データサイエンス実践入門(1日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスや統計学の基礎知識をはじめ、データの見方や特徴の捉え方、分析の考え方、手法の適用場面など、ビジネス現場でデータ活用を実践する方法を学ぶ。 すべてのビジネスパーソンがデータ分析スキルを習得するための基本を学ぶための講座である。
目標	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの全体像を理解するとともに、データ分析の基礎的なリテラシーを身につける。 データ分析の役割やプロセスを理解する。 説明的分析の基礎(集計・可視化)を身につける。 集計と可視化によってデータから情報を抽出し、適切な意思決定を支援する。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> これからデータサイエンスを活用していきたい方 現場でデータを分析しているが、統計学などの基礎から身につけたい方 データ分析における可視化や集計の勘所やコツを知りたい方
前提知識	初級レベル以上のExcel関数、ピボットテーブルの利用経験があること。
内容	<p>(Part 1) データサイエンス概論</p> <ul style="list-style-type: none"> データサイエンスとその歴史 ビジネスにおける活用シーンと事例 分析の民主化と目的別分類 分析のフレームワーク (PPDACサイクルの活用) <p>(Part 2) 集計・可視化からはじめるデータ分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ステップ1: 各変数の内容把握 ステップ2: 変数の組合せによる情報抽出 可視化の際に注意すべきポイント <p>総合演習 (グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス課題の抽出/整理と分析設計 データの可視化と結果考察 分析結果に基づく施策提案を発表  <p>詳細はこちら</p>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み) 各社2名まで。これを超える場合は112,000円
定員	15名
開催予定日	10月2日(金)
開講決定日	9月2日(水)

DT4 AI時代をリードするための、実践的AIプランニングを体系化 データ活用プランニング実践(1日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータやIoT、AI技術の全体像を理解し、適切にビジネス現場で活用していくための知識の習得～ビジネス企画の実践を通じて、様々なビジネス解決をできる人材の育成を目的とした講座である。 講座内では知識の理解だけでなく、各業界のデータ活用事例なども取り上げ、業界や業種を問わずAIビジネスに携わる方に求められる様々な知見を獲得することができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスやAIに関する基礎知識を理解し、ビジネス現場のAI活用シーンにおいて各種プロジェクトをリードするためのスキルを身につける。 AI技術について、周囲のステークホルダーからの質問に答えるために必要十分な知識を持つ。 実際のAI活用業務に必要な要件を理解しており、AI技術者と導入・運用時に合意を図ることができる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> AIの現状や今後、基本となる知識を得たい方 (例：経営者、企画部、マーケティング部 など) AI技術を現場で積極的に活用していきたい事業部門の担当者 (例：開発部門、製造部門、情報システム部門 など)
前提知識	特になし
内容	<p>(Part 1) データサイエンス基礎 (講義・ミニ演習)</p> <p>データの価値創造とプロジェクト企画に必要な予備知識とトレンド理解</p> <ul style="list-style-type: none"> AI・機械学習の基礎概念 データ活用のフレームワーク AI・機械学習技術の活用上の注意点 <p>(Part 2) ビッグデータ・AI時代のデータ活用 (ワークショップ)</p> <p>データ活用プロジェクトにおける企画・立案のためのフレームワークの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ビッグデータとIoTの流れ ワークショップ 「現場の課題からデータ活用プロジェクトを企画する」 <p>(Part 3) AIプロジェクト・デザイン実習 (ワークショップ)</p> <p>実用性の高いデータ活用プロジェクトの企画立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ 「現場の声からビジネス課題を創出して データ活用を推進」 成果発表と振り返り  <p>詳細はこちら</p>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み) 各社2名まで。これを超える場合は112,000円
定員	15名
開催予定日	11月13日(金)
開講決定日	10月13日(火)

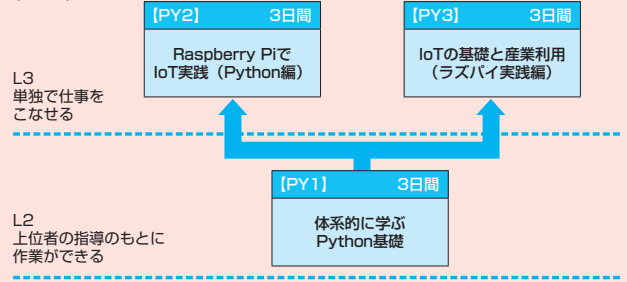
◆ AI・IoT活用人材育成コース 〈Python活用コース〉


【研修概要】


Python (パイソン) は、コードが比較的シンプルで扱いやすく、豊富なライブラリが利用可能である汎用プログラミング言語です。最近では、機械学習やデータ分析、IoTデバイスの制御でも利用されており、初心者からエンジニアまで幅広く利用されています。


本コースでは、PythonをIoTで活用することを想定し、Pythonの使い方に関する基礎講座、実践的なデバイス制御などの方法を学習する講座のほか、産業利用を想定したケーススタディを通じた体験を通じて、より実践的なPythonの活用を学んでいただけます。

【コース体系】 (レベル)



PY1 プログラミング初心者がPythonのエキスパートに 体系的に学ぶPython基礎(3日間)	
特徴	実用的なプログラムを3日間で作るストーリーの中で、Pythonの基本文法と標準ライブラリの使い方やデバッグ方法を学び、より良いコードを考える演習や受講者同士のディスカッションを通して、効果的な技術知識を必要とするタイミングで学習する。
目標	<ul style="list-style-type: none"> Pythonの特徴的な文法を理解し、基本情報技術者試験のPythonプログラミング問題を解くことができるようになる。 Pythonでオブジェクト指向プログラミングができるようになる。 Pythonを開発/実行するための環境を理解し、この先の技術 (RPA、データ分析、機械学習、画像処理、Webアプリ開発、サーバー管理) を利用するイメージをつかむ。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> これからPythonプログラミングをはじめの方 他のプログラミング言語 (C、Java、PHPなど) を知っているがPython独特の文法に戸惑っている方 データ分析や機械学習などに挑戦しようとしてPythonで躓いた方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> パソコンの基本操作 (ファイル・フォルダ操作、キーボード入力) ができること。 初歩的なプログラミング用語 (変数、配列、条件分岐、ループ、デバッグ) を知っていること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1章 Pythonとは 2章 Pythonの環境設定 3章 Pythonの基本文法 1 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4章 Pythonの基本文法 2 5章 Pythonの基本文法 3 6章 ネットワーク <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7章 Pythonの基本文法 4 8章 課題プログラミング演習 9章 Pythonで利用できる高機能なモジュール紹介  <p>詳細はこちら</p>
受講料	61,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	7月14日(火)～7月16日(木)
開講決定日	6月30日(火)

PY2 電子回路の基礎からIoTのセキュリティまで Raspberry PiでIoT実践 (Python編) (3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ブレッドボードを使用して電子回路を組むことで、電子部品の特徴と扱い方、そして回路に問題があればその箇所を見つける方法などを実践的に学ぶことができる。 制御プログラムで注意すべきポイント、ハードウェアとソフトウェアの両方を調整する知識をバランス良く習得できる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> Raspberry Piで電子回路を制御するための知識を身につける。 Raspberry Piと他のサービスと通信する仕組みを理解し実装できる。 IoTのセキュリティ課題を理解する。
対象者	IoT (Raspberry Pi) 開発技術に興味のある方
前提知識	簡単なプログラムを組めるプログラミング言語の知識があること (Python推奨)。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IoT 2. Raspberry Pi 3. Raspbian 4. Linux 5. Python 6. GPIOを使ったLED制御 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. GPIOを使ったLED制御 (PWM) 8. GPIOを使ってスイッチ操作を検知 9. SPI通信でセンサ情報を取得 10. I2C通信でセンサ情報を取得 <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. LCDに情報を表示 12. サーボモーター制御 13. ネットワークサービスとの通信 14. クラウドのIoTサービスを利用 15. IoTのセキュリティ  <p>詳細はこちら</p>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	15名
開催予定日	11月4日(水)～11月6日(金)
開講決定日	10月21日(水)

PY3 PythonとRaspberry Pi でIoTを実践的に体験してみよう! IoTの基礎と産業利用(ラズパイ実践編) (3日間)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ラズベリーパイ (Raspberry Pi) のセットアップから、センサーを使った簡単なシステムの構築までの流れを体験できる。 ラズベリーパイとPythonを用いて、現場で活用できるIoT技術を体験的に学べる。 演習で使ったラズベリーパイとセンサーは持ち帰ることができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 「IoTならとりあえずラズパイ」と無条件ではなく、ラズベリーパイの特徴を理解した上で採否の判断ができる。 ラズベリーパイの概要を理解し、IoTでラズベリーパイを「活用」するためのポイントを掴む。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> IoTに興味はあるけど何をすればよいか悩んでいる方 ラズパイを使ったIoT活用に興味のある方
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> PY1「体系的に学ぶPython基礎」を修了していること。 又は Pythonの文法的基礎知識があり、簡単なプログラムの作成経験があること。
内容	<p>【1日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IoTとは結局何なのか 2. IoTにおけるラズベリーパイの位置づけ 3. ラズベリーパイで「できること/できないこと」 <p>【2日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディ: 「現場環境のモニタリングと報告」 使われている技術の解説と応用例の検討 実装演習 <p>【3日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディ: 「外出先からの遠隔操作」 使われている技術の解説と応用例の検討 実装演習  <p>詳細はこちら</p>
受講料	71,000円 (消費税10%・教材費込み)
定員	8名
開催予定日	12月9日(水)～12月11日(金)
開講決定日	11月25日(水)

◆ AI・IoT活用人材育成コース 〈AR活用コース〉

【研修概要】

AR（拡張現実）は、現実の世界にデジタル情報を重ね合わせ、視覚的に拡張した表現を可能とする技術です。ゲームやカメラアプリなどが流行する中、建設や土木、運輸、小売などのさまざまな分野で活用が進められ、5G等の高速・大容量通信の登場により一層活用が期待されている技術です。

本コースでは、ARのビジネスシーンへの活用を見据え、活用事例を深掘し、背景にある技術を学習するとともに、演習を通じて理解を深めます。

【コース体系】

(レベル)

L3
単独で仕事をこなせる

L2
上位者の指導のもとに作業ができる

【AR1】 3日間

AR基礎と
ビジネス活用

AR1 見えないものを見る！身近な便利を作り出そう！ AR基礎とビジネス活用（3日間）	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ARの事例紹介だけでなく、事例の背景にあるAR技術に関する知識を学べる。 演習を通して、実際のビジネスシーンへARをどのように活用するかの考え方を習得できる。 演習は、Android端末とARCoreを用いる（端末は要持参）。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ARでできること/できないことが判断できるようになる。 ビジネスシーンにおけるARの活用場面を独力で見出せるようになる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ARに興味のある方 AR、モバイル端末のビジネス活用に興味のある方
前提知識	Java（又はC#）を使った簡単なアプリケーションの作成経験があること。
内容	<p>【1日目】 1. ARとは結局何者なのか 2. ARでできること/できないこと 3. ARで用いられる技術</p> <p>【2日目】 1. 「AR = 技術 × デバイス」を理解する 2. 「ビジネスに活用できる ≠ 高度で難しい技術」 3. 事例から考えるAR活用演習 1</p> <p>【3日目】 1. 事例から考えるAR活用演習 2 2. 事例から考えるAR活用演習 3</p>
受講料	61,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	15名
開催予定日	10月7日(水)～10月9日(金)
開講決定日	9月23日(水)



詳細はこちら

◆ AI・IoT活用人材育成コース 〈デジタルビジネス創出コース〉

開講決定
1ヶ月前

【研修概要】

本コースで目標とする人材像は、IoT等のデジタルテクノロジーを活用した新しいビジネスへの転換が加速する時代において、不足していると言われている「デジタルビジネス創出思考力を有する人材」です。

この実践ワークショップでは、デザイン思考をはじめとする「ビジネス創出に欠かせない思考メソッドと共創ツール」を活用し、実際にデジタルビジネスを創出するという一連のプロセスを体験・体得します。様々なキャリア背景を有する他社の人たちと、本音で対話し、必死に考えてアイデアを創り出し、議論しながらアイデアを磨いていく、という過程を通じて、深い気づきと新たな発見を得ることが期待できます。

【コース体系】

【DX1】 3日間

デジタルトランス
フォーメーション
実践ワークショップ

DX1 DX時代に欠かせないビジネス思考 -ビジネス変革をデジタル活用から駆動する- デジタルトランスフォーメーション 実践ワークショップ（3日間）	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 劇的な変化が続くマーケット動向を、テクノロジーとビジネスの関係性から紐解くことができる。 デジタルテクノロジーの利活用からビジネスを創り出す、変革する一連のDX推進プロセスを体験し、諸活動における重要なポイントが理解できる。 異業種や異なるキャリアを持つ人が集う多様性ある「場」にて、自社や自身の強み・弱みを発見するだけでなく、全く新しい考え方や発想を得ることができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> DX推進プロセスを自ら動かすことができる。 ビジネス創出及び変革をワークショップを通じて試行錯誤する中、現場実践におけるノウハウや助所を自ら獲得できる。 ビジネス企画書をデジタル活用から構想、作成できる。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> DX推進を担当している方 IoT/AIなどのデジタルテクノロジーを活用した新しいサービスやビジネスを創りたい方 新サービスや新商品などの企画や、新規ビジネス創出を担務とされている方 自社における新たなソリューションや商品の企画を他社と共に考えたい方
前提知識	一般的な法人組織の構造と役割を理解していること（概ね実務経験3年以上）。
内容	<p>【1日目】 1. インプットセッション 2. Work1 ケーステーマ理解 3. Work2 保有データの棚卸し 4. Work3 アイデア発想 5. Work4 サービス価値の定義</p> <p>【2日目】 6. Work5 ビジネスモデル構築 7. Work 6 企画書サマリの作成 8. アセスメント指標 9. 自社テーマ設定 10. Work 1-4 保有データの棚卸し - サービス価値の定義まで（自社テーマ）</p> <p>【3日目】 11. Work5-6 ビジネスモデル構築 - 企画書サマリ作成まで（自社テーマ） 12. 企画サマリアセスメント 13. リフレクション</p>
受講料	122,000円（消費税10%・教材費込み）
定員	20名
開催予定日	9月3日(木)～4日(金)、9月11日(金)
開講決定日	8月3日(月)



詳細はこちら

◆ 受講申込から開講までの流れ

受講申込は、「高度 IT 人材育成研修」Web サイトからお願いします。

0. 企業登録

本 Web サイトにおいて、未だ企業登録がお済みでない場合は、研修申込責任者など企業のご担当者様にご登録をお願いします。

「企業登録」ページにてご登録をお願いします。登録後、各企業の「My ページ」が作成されます。

1. 講座の申込み

受講を希望される方が「高度 IT 人材育成研修」に初めてお申し込みいただく場合、社員情報の登録が必要です。「My ページ」の「社員登録情報管理」ページからご登録をお願いします。



受講申込（仮受付）

「高度 IT 人材育成研修」Web サイトの「My ページ」にログインし、コース一覧から申し込む講座をご選択いただき「受講申込」にて申込み枠を確保してください。その後、「受講者登録」から受講を希望する社員を選択して、ご登録ください。

受講申込は、登録順に受け付け、定員になり次第「キャンセル待ち」となります。

受講キャンセルは、開講決定日までにお問い合わせいたします。それ以降のキャンセルはキャンセル料（原則として全額）をいただきます。

(1) E-ラーニング講座の場合

申込み受付後に送信される電子メールの内容に従って、手続きをお願いいたします。

受講が終了したら高度 IT 人材育成担当までご連絡ください。

(2) 集合研修（E-ラーニング以外）の場合

以下の流れで手続きを進めます。

受講決定（開講可否決定）

受講者が最少開講人数に達しない場合、やむを得ず開講を中止する場合があります。開講決定日に開講可否の判断を行い、「開講決定」又は「開講中止」を電子メールにてご連絡いたします。

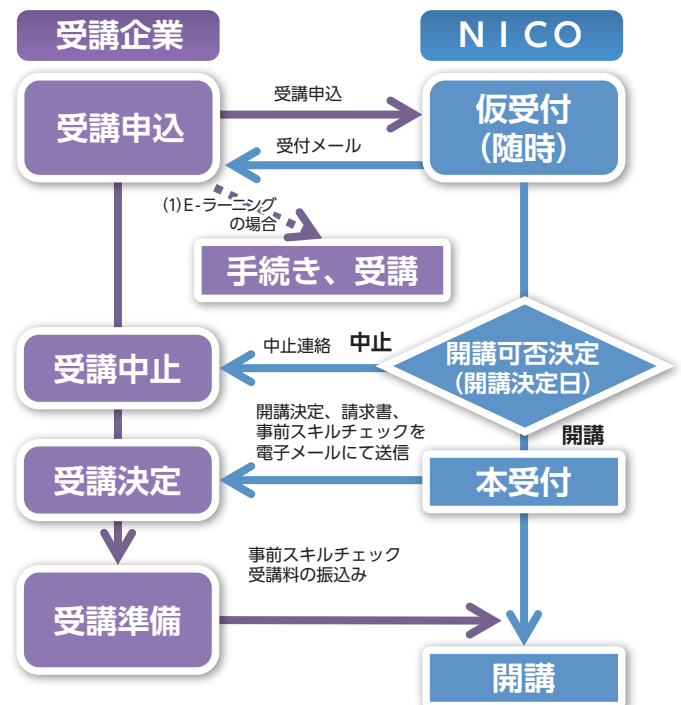
開講する場合、受講者には事前スキルチェックの依頼もお送りいたしますので、速やかにご回答ください。

受講準備

受講者は、開講 1 週間前までに事前スキルチェックを実施してください。

また、受講料は、原則として開講 3 営業日前までに、指定の銀行口座にお振込みください。

なお、受講料には、消費税 10%及び教材費が含まれております。



(※) 開講決定日：講座概要ページに「1ヶ月前」等の指定がない場合は、開講予定日の2週間前とします。

お問い合わせ先：公益財団法人にいがた産業創造機構 産業創造グループIT支援チーム 高度IT人材育成担当

● TEL 025-246-0069 ● FAX 025-246-0030 ● E-mail kns@nico.or.jp

研修Webサイト <https://www.nico.or.jp/kensyu/>

◆ 研修助成制度について

研修を受講される企業の皆様には、公的な研修助成制度の利用をお勧めしています。

○人材開発支援助成金

雇用保険適用事業所の事業主に対する人材開発支援助成金は、労働者のキャリア形成を効果的に促進するため、職業訓練などを実施する事業主等に対して訓練経費や訓練中の賃金を助成する制度です。

各コースで助成額・助成率が異なりますので、詳しくは、下記窓口までお問合せください。

なお、訓練実施計画届の提出期間は、訓練開始日から起算して1か月前までとされていますので、ご注意ください。

＜新潟労働局 職業安定部職業対策課助成金センター TEL (025) 278-7181＞

◆ 会場案内図



◆ JR新潟駅からバスで

〈新潟駅万代口バスターミナル3番線〉
新潟交通17系統佐渡汽船連絡バス
「朱鷺メッセ」停留所下車 (片道210円)
詳しくは [新潟交通HP \(※\)](http://www.niigata-kotsu.co.jp/~norai/route-bus/sadoferry/) をご覧ください。

◆ 高速ICから車で (最寄IC)

北陸・日本海東北道「新潟亀田IC」
磐越道「新潟中央IC」

【駐車券について】

駐車券の発行はいたしませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

(※) <http://www.niigata-kotsu.co.jp/~norai/route-bus/sadoferry/>

研修施設ご案内 万代島ビル11階 NICOプラザ

